



つ く の ち ゅ う
津久野中だより

令和 8 年 9 月 30 日
堺市立津久野中学校
校長 草島 進之介

実るほど首（こうべ）を垂れる稲穂かな ～秋は実りがいっぱいです～

「読書の秋」「スポーツの秋」「芸術の秋」「食欲の秋」——秋になると、さまざまな「○○の秋」という言葉を耳にします。春にも夏にも冬にも、それぞれの魅力がたくさんありますが、なぜか「秋」だけこの表現で伝えられることが多いですね。調べてみたら正しい理由があるのかもしれませんが、私は秋が『実り』の季節だからと考えます。

春まだ寒さ厳しいころにまいた種が、夏の雨や陽ざしを思いっきり浴びたり、ときには嵐や日照りのような過酷な状況に耐え続ける。そして、そんな作物と一緒に月日を過ごし、愛情を込めて育てあげた人々は、秋の収穫の時を迎えるそのときを、待ちに待ったその時を、大きな喜びとともに迎えるのです。『実り』を手にした瞬間、一つひとつの苦労やかけてきた労が報われ、何とも言えない充実感に包まれる——昔から日本人は、このような季節の巡りの中で、秋を「努力がかたちとなって表れ、成果や手応えを実感できる季節」として受け止めてきたのではないのでしょうか。だからこそ、さまざまなことに取り組むのによい季節として親しまれてきたのでしょう。

一方で、そうした成果や手応えに対して、「自分がすごかったから」とか「これだけできたのは自分の力だ」といって、何か勝ち誇るような喜び方はあまりしてこなかったということも、日本の文化からひも解くことができます。それは、たとえば「五穀豊穡」を祝うだんじり祭りをはじめ、全国各地にある秋の祭事を見てもわかります。月日をかけて得ることができた『実り』を自分一人だけの力によるものとは考えず、天候や自然といった人智をこえたものからの恵みや、ともに汗を流し、苦労を分かちあった仲間への感謝として祝いあい、喜びあう風習が、人々の暮らしの中に今も息づいています。

こうした姿勢や態度は、主にお米作りを営んできた日本の人々が自然と身につけたものかもしれませんね。そして、だからこそ秋の田んぼに広がる実り豊かな稲穂の姿に自分たちを重ねて、『実るほど首を垂れる稲穂かな』という言葉が誰からともなく語り継がれ、大切にされてきたのでしょう。豊かに実った稲穂ほど、その重みで深く頭を垂れます。反対に、実りの少ない稲穂はまっすぐ上を向いています。この稲穂の姿に、「本当に力をつけた人は、謙虚で感謝の心をもつものである」という、人としてめざしたい姿を重ねた先人たちの感性や知恵には、素直に感心させられます。

さあ、学校生活においては、いよいよ体育大会と文化活動発表会という大きな行事を迎える時期がやってきました。めざす目標はそれぞれあることでしょうし、そのためには誰にも負けず一人一歩の努力や、たくさんの時間を費やすこともあるかもしれません。そこで覚えていてほしいことは、一人ひとりが持っている「自分の力」が、合わさったり、重なったり、同じ方向を向くことで、はじめて大きなことをなすことができるということです。そして、そのために必要なことが、「お互いに感謝し合う」という心構えです。これらの大きな学校行事にまっすぐ向き合い、得意不得意や好き嫌いを乗り越えて、自分なりの頑張りや仲間の頑張り感謝の気持ちをもって取り組むことができたなら、成績や結果だけにとどまらない、人としての『実り』の多い経験を積むことができるはずです。そして、その『実り』が自信につながり、「本当に力をつけた人」として、学習においても、部活動や習い事においても、さらなる『実り』をもたらす人柄を磨くことになるでしょう。

津久野中学校の秋が、そんな『実りの秋』でいっぱいになることを期待しています。

生徒会の仲間が夏に学んできたこと

夏休みに行われた「生徒会の集い」に、本校の生徒会役員が参加しました。それぞれの分科会での活動内容等を全校集会でしてくれましたが、私は活動に参加しただけでなく、そこで得たそれぞれの学びに大きな価値を感じました。

ダンスに取り組んだ生徒は、たった二日間の活動であっても、相手を知ろうとすることで、その人の優しさや面白さに気付き、心の距離が縮まることを学びました。その積み重ねが仲間との信頼関係を生み、円陣を組んで本番に臨むほどの強いつながりにつながったと振り返っていました。演劇に取り組んだ生徒は、「伝えること」の本質について学びました。ただ言葉を発するだけではなく、聞き手を自分たちの世界に引き込み、楽しい空間をつくりながら共感してもらうことの大切さを学んだそうです。ネットいじめ防止について話し合った生徒は、話しやすい雰囲気は誰かが与えてくれるものではなく、自分たちでつくることができると学びました。アイスブレイクを通じて安心して意見を出し合える関係が生まれ、活発な話し合いにつながったそうです。歌の分科会に参加した生徒は、積極的に行動することの大切さを感じました。周囲の生徒たちは自分から積極的に声をかけ、行動していたそうです。物事に取り組むときは待つだけではなく、自分から働きかけることが大切であり、その姿こそがリーダーとして求められる姿なのだと学んでいました。また、コスプレを用いた企画づくりに取り組んだ生徒は、人を楽しませることの奥深さについて学びました。ただ楽しいことをするのではなく、相手が楽しめるようにするためには、綿密な準備や工夫、役割分担が必要です。その過程を通して、コミュニケーションやリーダーシップの大切さを実感したそうです。

今回の集いを通して生徒たちは、「人とつながる力」「人を巻き込む力」「人を楽しませる力」「人と語り合う力」など、多くのことを学びました。この経験をこれからの生徒会活動、そして津久野中学校全体の学校づくりに生かしてくれることを期待しています。

10月の主な行事予定

10月2日～4日 津久野地区祭礼

9日 各種委員会

13日 生徒議会

15日 つくの井戸端

16日～18日 家原寺地区祭礼

21日 体育大会予行

23日 体育大会

26日 体育大会予備日

※11/2 3年生実力テスト

※11/6 文化活動発表会

※11/16,18～24 3年生進路懇談